



稚内北星学園大学

連携自治体：稚内市、利尻町

事業名：地域の教育力向上とまちづくりで協働する地（知）の拠点整備

事業の概要・目的

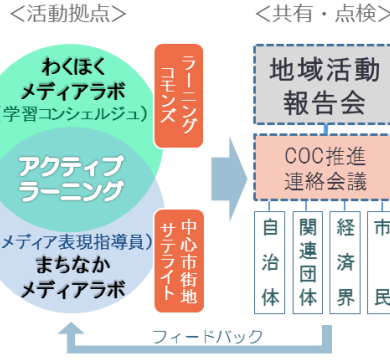
（地域の課題）

- 放課後学習の不足などによる学力の伸び悩み、ICT利用教育の遅れ
- 観光の入込数の停滞、効果的な情報発信の不足
- 中心市街地の空店舗の増加、多世代交流スペースの必要

（課題解決のための大学の取組）

課題ごとに支援室を設けて解決に向けた活動に取り組む。その際、それぞれの活動をアクティブラーニングの一環として位置づけ、学生の主体的な参加を促す。

教育	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域人材の力を借りた地域志向カリキュラムの充実 ◆ アクティブラーニングの拠点を学内と中心市街地に設け、専任の支援員を配置した学習支援
研究	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域の学校とともに取り組むICT利用教育のデザイン ◆ ICTを利用した効果的な観光情報発信の研究 ◆ 中心市街地活性化のための社会科学的研究・歴史的研究
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育委員会と連携した放課後学習支援 ◆ コンテンツとソフトウェア両面における観光ガイドアプリ開発 ◆ サテライト施設を活用した中心市街地の活性化



（卒業後の学生のイメージ）

- ① 地域の課題を解決する実践力を身につけたICTエンジニア
- ② 観光・農漁業などの産業振興やまちづくりに取り組む自治体職員、農漁協職員
- ③ 地域メディアを活かすクリエイターや出版・図書館系の職種
- ④ 地域の教育力向上に実践を積み、情報メディアに強い数学教員

	1年	2年	3年	4年
地域志向必修科目	地域学Ⅰ 地域文化論	地域学Ⅱ		
地域志向関連科目	コースごとの専門性を活かしたアクティブラーニング科目			

平成27年度より、情報メディア学科に「情報テクノロジー」「地域デザイン」「メディア表現」「ビジネス観光」「数学教育」の5つのコースを置き、2年次に所属を決めることとしている。

（人材育成に地域の声を反映）

年2回の「地域活動報告会」を行い、全学および活動に直接に関連した学外機関や市民との間で各支援室の活動成果を共有するとともに、学生を励ます。

年度末に行う「COC推進連絡会議」には、本事業の内容に関わる幅広い自治体・関連団体・経済界等からの出席を呼びかけ、成果の確認と問題点の整理を行い、協働関係の強化を図る。

（現在の取組）

- 地域志向科目の新設および開設準備
- アクティブラーニングの拠点整備
- 学生による、小中学生の放課後学習への支援
- 地域観光研究会の実施
- 地域の魅力を描いた映像作品の制作

● 事例：「教職ゼミ」

教員をめざす学生たち8名（3・4年生、通年4単位）に2年生が加わって、本の読み合わせで教育や社会の状況への認識を深めるとともに、地域の子どものための学習支援に取り組んでいる。稚内の小学生向けの「グングン塾」、利尻町での夏休み「小中合同学習会」、そして猿払村とインターネットで結んで行った「遠隔学習支援」。これらの活動は、子どもたちにとって有意義な学びの機会となると同時に、学生たちにとっても教育実践として貴重な経験の場となっている。

人材育成の取組

（人材育成像）

- <まちを教室>にして身につく社会力
- 情報メディアを地域に活かすスキル
- 地域課題に取り組む問題意識と意欲
- チームで解決を図る創造性と協調性

（目指す人材育成のためのカリキュラム改革）

- 1年次および2年次に地域志向必修科目として「地域学Ⅰ」「地域学Ⅱ」「地域文化論」を置き、さらに2年次に降次に地域志向関連科目として専門性の高い内容で実践的な学習教育を行えるようカリキュラムを充実。
- 各支援室の活動とカリキュラムをリンクさせ、情報メディアの力を現場で活用する経験を積めるよう工夫する。
- 学生がチームでアクティブラーニングに取り組む拠点を学内（わくほくメディアラボ）および中心市街地（まちなかメディアラボ）に設け、それぞれに「学習コンシェルジュ」「メディア表現指導員」を配置し、学習支援体制を整える。

課題に対する大学の取組

	26年度	27年度（予定）	30年度（目標値）
連携自治体を意識した教育	10%	20%	50%
連携自治体の課題に関する研究	5%	10%	30%

（地域志向カリキュラムの特徴）

■ 地域の情報発信

「映像メディア論/演習」（2年次、計4単位）では、地域の自然や文化・人物を紹介する映像作品を制作する。企画・取材・撮影・編集を学生自身の手で行うことで、地域に対する理解が深め、クリエイティブなスキルとコミュニケーション力を身につける。

26年度は3名がチームとなって『風が芽吹く町へ 夢を追いかけて〜稚内市下真知パン屋「風芽」〜』を制作し、東京から稚内に移住を果たした家族の生活を紹介した。



■ 科目コラボで実践的学習

分野の異なる科目のコラボレーションで、稚内観光アプリの開発に取り組む。「観光メディア論」で観光資源の発見と情報整理を行い、それを「ソフトウェア制作演習」でスマートフォン上で動くアプリとして実現する。

■ 地域と協働するまちづくり

商店街のそれぞれの店舗がそのプロとしての技を無償で提供し、まちに賑わいを復活を図るイベント「まちゼミ」。この「まちゼミ」を稚内の中心市街地で実施すべく、学生が企画・交渉・宣伝・実行までを「社会教育課題研究」において行う。

地域の期待に応じて飛躍を



北海道稚内市市長
工藤 広

「宗谷の地に高等教育機関を」という地域の熱い思いを背景に、北海道で初の公設民営大学として稚内北星学園が誕生し、27年が経過しました。この間、この地域に多くの人材を輩出すると同時に、研究と教育の成果を地域づくりに活かすという貢献を果たされてきました。今回のCOC事業への参画を機に、自治体ならびに企業・団体との連携をさらに強め、地域の願いに叶う人材の育成に力を発揮していただけるものと期待しています。

「まちなかメディアラボ」が楽しくなりそう



稚内北星学園大学
情報メディア学部 2年次
武田 大貴

12月の2日間、稚内の中心市街地に設けられた大学のサテライト「まちなかメディアラボ」（略称「まちラボ」）のプレオープンイベントがありました。あいにくの悪天候で心配でしたが、多くの市民の方に来ていただきました。飾り付けや先生方の講座の手伝いをしたりしましたが、市民の方たちというお話できるいい機会となりました。また、どんな風に「まちラボ」を活用していけるか、皆からさまざまなアイデアが出ていました。本格オープンは来年度の4月になりますが、楽しみです。